

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	近代建築史小委員会	主 査 名：内田 青蔵
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠本委員会	委員長名：陣内 秀信
設 置 期 間	2001 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	記念益々取り壊しが進められ、その存続が危ぶまれている近代建築に関する保存問題ならびにその活用問題を中心テーマとした活動を行なうことを目的とする	
委員構成 (委員名 (所属))	主査：内田青蔵 (文化女子大学)、揚村固 (鹿児島県立短期大学)、足立裕司 (神戸大学) 石田潤一郎 (京都工芸繊維大学)、大川三雄 (日本大学)、角幸博 (北海道大学)、千代章一郎 (広島大学)、中川理 (京都工芸繊維大学)、中森勉 (金沢工業大学)、西澤泰彦 (名古屋大学)、初田亨 (工学院大学)、藤岡洋保 (東京工業大学)、藤谷陽悦 (日本大学)、村松伸 (東京大学)、山形政昭 (大阪芸術大学) 以上 15 名	
設置 WG (WG 名：目的)	アジア近代建築ネットワーク WG WG 主査：村松伸 アジア圏の近代建築に関する情報収集と研究活動を目的とする	
2004 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第1回 2004 年 10 月 26 日 参加者：8 名 第2回 2005 年 3 月 5 日 参加者：5 名 委員会開催シンポジウム：「近代建築研究の現在を問う」開催：2005 年 3 月 5 日
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>実際に開いた委員会 2 回だが、メールを用いて意見交換を行ない、委員会を開催した。現在、全国の保存・再生事例のデータベース構築について意見交換を行なっているところである。また、こうした事例を収集し分析することを目的に、委員会メンバーで科学研究費の申請を行なった。申請が受理されれば、2005 年度に活動を積極的に行なうことになる。</p> <p>なお、この保存・再生事例に関しては 2005 年 1 月の『建築雑誌』に「今伝えたいトピックス」として「歴史的建造物の保存・再生事例のリストづくり」(内田)と題して、活動状況に関して報告している。</p> <p>また、委員会主催のシンポジウムとして、「近代建築史連続シンポジウム」を企画し、今後数年間は日本近代建築史研究の見直しをテーマに意見交換を行なうことにし、第 1 回目を 2005 年 3 月 5 日に大阪を会場として開催した。参加者は 80 名ほどと盛況であった。今後、このテーマを絞込み、意義あるシンポジウムを展開したいと考えている。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>全国の近代建築の保存・再生事例のデータベース化に関しては、科学研究費の申請とその受理が決まれば、具体的に動くこととし、現在は意見交換状態にとどまっている。次年度は、具体的なデータベースのシート作りなどを行い、データ収集のための環境整備を図りたい。また、データ集のマニュアル作成に関しても、意見交換の状況で留まっており、実現するためには、もう少し時間が必要である</p>
その他評価すべき事項	